

くさの ただよし
草野 忠義

連合・事務局長

成果を積重ねる国際運動に目を

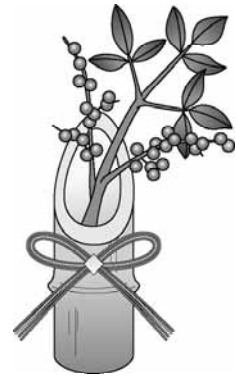
1月号ということですので、過去の一年間を振り返りながら、新しい一年への抱負や見通しを述べるのが恒例だと思います。そう言った意味では、何と言ってもこの一年間、連合の諸活動に対していただきました、皆様方のご理解、ご支援に心から感謝を申し上げたいと思います。

2004年の連合の新春の集いで、会長の笹森は、「昨年各種の数値を底とし、今年は何としても反転の年にする。そのために連合は先頭に立って全力をあげる！」といわば宣言を致しました。その会長の意気込みもあって、雇用関係の数字は昨年を底として改善してきておりますし、経済や企業業績も上向きの傾向を示しております。そう言った意味では、全体としては明るさが見えてきたと言っても過言ではないと思います。しかし、どうも勤労者、国民と言っても良いと思いますが、その実感が持てません。それは、やはり将来に対する不安感が払拭できないからではないでしょうか。とくに年金に代表される社会保障制度への不信と将来への不安、リストラという名の人減らしは何とか一段落したようですが、成果主義や業績給の導入などで社内での競争至上主義の流れは止まりそうになく、そこから生み出される雇用への不安。非典型労働者の急増による雇用の先行きへの不安と収入への不安。フリーターに加えてニート（NEET）と呼ばれる若者達が既に両方で300万人近くに達しており、本人達から見た現在と

将来に対する大きな不安と、日本の将来という視点で見た場合の産業力・経済力がどうなってしまうのかという深刻な不安。全ての面で、二極化が進行していると言われており、この問題への不満。不満・不安・不信と新年にふさわしくないとは思いますが、多くの暗い話や例をあげしまいました。しかし、これらが新しい年の挑戦すべき課題であることは明白であります。その意味で、昨年一年間に課題として残ったものを列挙した次第です。連合としては、これらの課題に積極的に取り組んでいく所存です。旧年に倍する皆様方のご協力をお願いする次第です。

ところで、昨年一年間の連合の活動の中で、国際関係に係る三つの事について報告をしたいと思います。というのは、賃金・労働条件や政策・制度課題あるいは政治・選挙関係は比較的マスコミ報道でも取り上げられることが多く、皆さん方の目や耳に止まっていると思いますが、国際関係は比較的、情報として皆さん方の近くに行っていないのではないかと思うからです。

その第一は、ロシアとの関係です。ロシアとの関係と言えば、北方領土返還運動です。その歴史的経過はご案内の通りですが、返還運動の一環として、「ビザ無し（北方四島への）渡航」が行われています。これは1991年にゴルバチョフ・ソ連大統領（当時）と海部首相（当時）との間での約束に基づいて開始されたもので、連



合としてもこれに積極的に参加して来ました。延べ110人が参加したわけですが、これはあくまでも政府が実質的に主催するものでした。私たちは、これを更に発展させることが必要であるとの観点から、自らの力で何とかやってみようということで、昨年9月に「連合の船」を独自に計画し、元島民代表、マスコミの方などを含めて、88人で国後島を訪問しました。現地行政の副地区長との会見はもとより、各施設の見学、学校訪問と子ども達との交流、そして島民の方々との交流会などを実施してきたわけです。この連合の船は、元島民の方や、長年にわたって返還運動に携わった方から感激をもって大いに評価されましたし、日本のマスコミの方々にも取材で同行した価値があったと感謝されました。事実、北海道においては、テレビ・新聞で大きな扱いをさせていただきました。(残念ながら北海道以外では殆ど報道されておらず、ここが極めて大きな問題です。)報道の中で、これがキッカケとなって民間の交流が広がれば返還も近づくのではないかとの記事もありました。出来るだけ、そうありがたいし、そのためにも、連合の船を続けていきたいと考えております。

第二はAPLN(アジア・太平洋労働ネットワーク)についてです。これはAPEC(アジア太平洋経済協力会議)の各国・地域の労働組合の集まりです。このAPECに対し労働組合の意見を主張し、その政策に働く者の声を反映

する必要があると考え、諸活動を展開してきました。皆さんご存知のOECDには、TUAC(労働組合諮問会議)というのがあり、OECDの政策に組合の意見を反映させる場があります。一方、BIACと言って経営者の諮問会議もあります。ところが、APECにはABACと言って、経営者の会議はありますが、労働組合の場はありません。そのため、私たちはAPECにも労働組合の意見反映の場をつくるよう要求を続けてきました。そして、昨年11月にチリのサンティアゴで行われたAPEC首脳会議の前に、労働組合も結集し、ホスト国の元首、つまりチリのロゴス大統領にその申し入れを行いました。そのロゴス大統領の努力もあって、10年にしてやっと、宣言の中に労働組合との話し合いをするように努力するとの文言が採用されました。極めて大きな前進だと考えますが、これも残念ながら報道されておりません。

3つ目は、国際自由労連(ICFTU)の世界大会で、昨年12月5日~10日の間、宮崎市で開催されました。海外から約750人、国内から約500人の計1250人が一堂に会し、「連帯のグローバル化 未来に向けたグローバル・ユニオン運動の構築」をテーマに熱心な討議が展開されました。日本で開催されるのは、おそらくこれが初めてで最後になるかもしれない大会だけに、連合としても力が入りました。皆さん方にも、このような国際関係の運動についてもご理解をいただきたいと思っております。